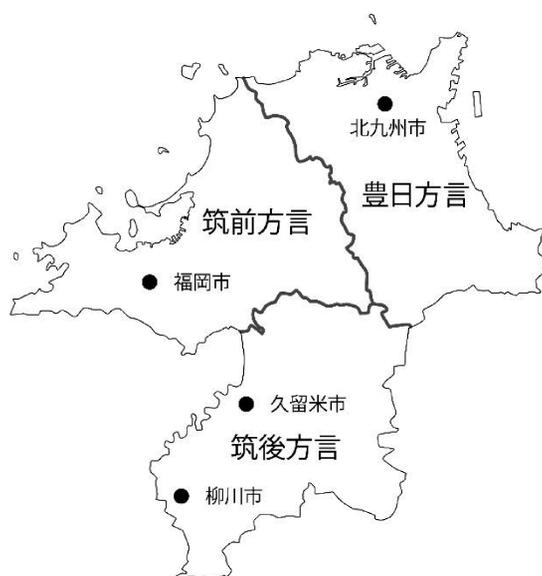


福岡県柳川市方言



福岡県方言区画図

【福岡県の方言区画】九州方言は大きく肥筑方言、豊日方言、薩隅方言に分類され、福岡県内には、北九州市など豊日方言圏の地域と、福岡市や久留米市など肥筑方言圏の地域とがある。福岡県内の肥筑方言圏はさらに筑前方言と筑後方言に分類することが可能である。

【柳川市方言について】柳川市方言が話されている柳川市は、人口約 65,000 人の地方都市であり、このうち 70 歳以上の人口は約 15,000 人である（2020 年 7 月末現在）。若年層の都市部への流出が激しく、今後伝統的な方言が失われていくことが予想される。

柳川市方言は、方言区画上、肥筑方言の中の筑後方言に属するが、間投詞 *nomo*、尊敬接辞 *-mes* を使用する点で、他の筑後方言と区別される（岡野 1983: 65）。柳川市方言の先行研究には藤原（1952）、高野・田中（1972）、松永・上野（1973）、鬼丸ほか（1975）、坂田（2004）、松岡（2021）がある。藤原（1952）は、尊敬接辞 *-mes* と間投詞 *nomo* の記述を行っている。高野・田中（1972）、松永・上野（1973）、鬼丸ほか（1975）は、柳川市方言と近隣方言との語彙差を、言語地図に示している。坂田（2004）は、

形容詞語根に名詞化接辞 *-sa* がついた形の用法をサ詠嘆法と呼び、柳川市方言をはじめとした肥筑方言圏における用法を記述している。松岡（2021）は、柳川市方言の文法概説を示している。

【表記について】音素 */s/* の後に */e/* が来る場合、*/s/* は口蓋化して実現することがあるが、表記には反映させず、セと表記する。柳川市方言の音素体系の詳細については、松岡（2021）を参照されたい。

【調査概要】本稿の記述は、特に断りのない限り 2019 年 4 月から 2021 年 8 月にかけて対面及び電話を用いて行った調査データによる。調査に協力してくださったのは、2020 年時点で 80 代後半の 2 名の話者である。1 名は 5 年の外住歴（20 代前半、東京）があり、もう 1 名は外住歴がない。2 名の話者の内省はおおむね一致しているが、違いがある場合は適宜言及する。なお、参考のために若年層の柳川市方言話者（0~18 歳まで柳川市在住）である筆者の内省を一部示している。

福岡県柳川市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	二段型 食べる	来る	する
終止類	断定非過去	カク	ミル	ダブル	クル	スル
	断定過去	ケータ	ミタ	タベタ	キタ	シタ
	命令	カケ	ミロ ミレ	タベロ	コイ ケー	セロ セレ
	禁止	カクナ	ミルナ ミンナ	ダブルナ タブンナ	クルナ クンナ	スルナ スンナ
	意志	カコー	ミュー ミヨー ミロー	タビュー タベヨー	コヨー	シュー シヨー
	推量	カコー カクヤロー	ミュー ミヨー ミロー ミルヤロー	タビュー タベヨー ダブルヤロー	コヨー クルヤロー	シュー シヨー スルヤロー
接続類	連体非過去	カク	ミル	ダブル	クル	スル
	連体過去	ケータ	ミタ	タベタ	キタ	シタ
	中止	ケーテ	ミテ	タベテ	キテ	シテ
	否定中止	カカンナ	ミンナ	デンナ	タベンナ	センナ
	仮定	ケータラ カクナラ カクゲット	ミタラ ミルナラ ミルゲット	タベタラ ダブルナラ ダブルゲット	キタラ クルナラ クルゲット	シタラ スルナラ スルゲット
	目的	カキゲ	ミゲ	タベゲ		シゲ
派生類	否定	カカン	ミン ミラン	タベン	コン	セン
	義務	カカヤン	ミヤン	タベヤン	コヤン	セヤン
	丁寧	カクデス	ミッデス	タブッデス	クッデス	スッデス
	使役	カカスル	ミサスル	タベサスル	コサスル	サスル
	受身	カカルル	ミラルル	タベラルル	コラルル	サルル
	可能	カキキル	ミキル	タベキル	キキル	シキル
	尊敬	カカス カキナハル	ミラス ミナハル	タベラス タベナハル	コラス キナハル	サス シナハル
	継続	カキヨル ケートル	ミヨル ミトル	タベヨル タベトル	キヨル キトル	シヨル シトル
	希望	カコーゴタル	ミューゴタル ミヨーゴタル ミローゴタル	タビューゴタル タベヨーゴタル	コヨーゴタル	シューゴタル シヨーゴタル
	のだ	カクト	ミット	タブット	クット	スット

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak·u	ケー-タ	kをiにする。母音連続(ai)が融合(ee)する。
g	嗅ぐ kag·u	ケー-ダ	-タが-ダになる。gをiにする。母音連続(ai)が融合(ee)する。
s	出す das·u 話す hanas·u 働く gamadas·u	デー-タ ハネ-タ ガマデー-タ	sをiにする。母音連続(ai)が融合(ee)する。
t/c	立つ tac·u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob·u 遊ぶ asob·u 喜ぶ jorokob u	トー-ダ アソ-ダ ヨロコー-ダ	-タが-ダになる。bをuにする。母音連続(ou)が融合する(oo)。
m	飲む nom·u	ノー-ダ	-タが-ダになる。mをuにする。母音連続(ou)が融合する(oo)。
r	切る kir·u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)·u もらう mora(w)·u 間違え matiga(w) u	コー-タ モロ-タ マチゴー-タ	wをuにする。その結果生じた母音連続(au)が融合(oo)する。
基幹末長母音が一部で短母音化する現象については、1(2)断定過去形を参照されたい。			

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		早い	きれい(だ)	先生(だ)	
			形容詞型	形容名詞述語型	
終止類	断定非過去	ハヤカ	キレーカ	キレー(ヤ)	センセー(ヤ)
	断定過去	ハヤカッタ	キレーカッタ	キレーヤッタ	センセーヤッタ
	推量	ハヤカロー ハヤカヤロー	キレーカロー キレーカヤロー	キレーヤロー	センセーヤロー
接続類	連体非過去	ハヤカ	キレーカ	キレーナ	センセーノ
	連体過去	ハヤカッタ	キレーカッタ	(該当形 欠)	センセーヤッタ
	中止	ハヨ シテ	(該当形 欠)	キレーデ	センセーデ
	仮定	ハヤカッタラ ハヤカナラ ハヤカゲット	キレーカッタラ キレーカナラ キレーカゲット	キレーヤッタラ キレーナラ	センセーヤッタラ センセーナラ
派生類	否定	ハヨ ナカ	(該当形 欠)	キレーヤ ナカ	センセーヤ ナカ
	なる	ハヨ ナル	(該当形 欠)	キレーニ ナル	センセーニ ナル
	副詞	ハヨ	(該当形 欠)	キレーニ	センセーニ
	丁寧	ハヤカデス	キレーカデス	キレーデス	センセーデス
	のだ	ハヤカト	キレーカト	(該当形 欠)	(該当形 欠)

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

柳川市方言の動詞活用は、大きく規則活用と不規則活用に分類される。規則活用をとるのは本シリーズにおける多段型、一段型、二段型であり、不規則活用をとるのは「スル(する)」、「クル(くる)」である。多段型には、古典語の四段活用動詞とナ行・ラ行変格活用動詞(本シリーズのa類)が所属する。一段型には、古典語の上二段動詞と上二段動詞、そして下二段活用動詞の一部(デル「出る」、ネル「寝る」)に対応するものが所属する。二段型には、古典語の下二段活用動詞が所属する。「出る」と「寝る」に関しては、それぞれズルとデル、ヌルとネルのように一段型の活用と二段型の活用が併存している。

柳川市方言における一段型の特徴として、ラ行五段化やr語幹化と呼ばれる現象が生じるという点が挙げられる。r語幹化、すなわち一段型や二段型の動詞が語幹末子音がrである多段型と同じような活用形式をとるという現象は九州をはじめ諸方言で観察され、どのような環境で多段型と同じく活用するかは方言差がある(黒木 2019、宮岡 2021)。柳川市方言においては、意志形、推量形、否定形、命令形でr語幹化した形式が観察されるが、一段型の活用も許容される。一段型に属する動詞には、「ミル(見る)」、「オキル(起きる)」、「デル(出る)」、「ネル(寝る)」などがある。すべての一段動詞についてr語幹化形式が容認されるかは確認していないが、少なくとも「ミル(見る)」、「オキル(起きる)」、「デル(出る)」に関しては意志形、推量形、否定形、命令形でr語幹化した形式が許容される、もしくは自然談話において現れることを確認している。

二段型動詞の基幹はウ段とエ段である。「食べる」を例にとると、タブル(tabu-ru)とタベタ(tabe-ta)のようにそれぞれの基幹形式が現れる。二段型動詞は、r語幹化形式をもたない。

(2) 各活用形の特徴

〈断定過去形〉

多段型の動詞は、ウ段形をとる。表「多段型動詞の基幹音便形」に示したように、柳川市方言において母音の連続は融合しうるが(例: au→oo)、w語幹動詞の非過去形は母音連続が生じても融合すること

はない(例: kau「買う」、*koo「買う」)。語幹末子音がnである動詞は、語末が撥音化した形式(シン「死ぬ」)で現れる。一段型の動詞は語幹(=基幹)に、二段型の動詞はウ段形に「ル」が接続する。不規則動詞に関して、「する」はウ段形に、「来る」もウ段形にルが接続する。

- ・ショーセツバ カク。(小説を書く。)
- ・クスイバ フルゲット シンタンモ。(蜂の巣に) 薬をふったら(蜂は)死ぬよ。)
- ・ソッカラ ミル。(そこから見る。)
- ・ヘビワ ニョロニョロニョロチ スル。(蛇はニョロニョロする。)
- ・ムシノ イッテ クル。(虫が入ってくる。)

〈断定過去形〉

多段型の動詞は、前掲の表「多段型の動詞音便形」に示したように、語幹末子音によって異なる形態音韻交替が生じる。さらに、形態音韻交替の結果として長母音が生じた場合(例: hanas-ta→hanai-ta→hane-ta「話した」)、少なくともs語幹、b語幹、w語幹では、基幹のモーラ数が奇数モーラであれば、長母音の短母音化が生じる(例: hane-ta→haneta「話した」)。他の語幹でも長母音の短母音化が生じる可能性があるが、未調査である。なお、基幹のモーラ数が奇数モーラである場合の長母音の短母音化に関して、「話す」、「遊ぶ」では短母音化が義務的(haneta、*hanecta「話した」、asoda、*asooda「遊んだ」)であることを確認しているが、他の奇数モーラ基幹においても短母音化が義務的かどうかは確認できておらず、今後の調査が必要である。奇数モーラ基幹に含まれる長母音の短母音化は、近隣方言である福岡県八女市黒木町方言でも観察される(加藤・井手口 2018)。以下に、語幹末子音がsである動詞の例を示す。

- ・ゼンバ ケータ。(お金を貸した。)
- ・ソゲン ハネタ。(そんなふうに話した。)
- ・トーチャンガ ガマデータ。(お父さん(話し手の配偶者)が一生懸命働いた。)

一段型の動詞は語幹に、二段型の動詞はエ段形にタが接続する。一段型の動詞に関して、例えばミッタ「見た」のようなr語幹化した形式は許容されない。不規則活用動詞「する」、「来る」に関しては、いずれもイ段形にタが接続する。

- ・トマサクモ ムカシワ ミタ。(イタチも昔は見かけた。)
- ・ゴハンバ タバタ。(ご飯を食べた。)
- ・チョット シチッチ シタ。(ちょっとちくつとした。)
- ・ココサン ヨメニ キタ。(ここに嫁に来た。)

〈命令形〉

多段型の動詞は、エ段形をとる。一段型の動詞は、語幹-ロの形式をとる場合もあるが、r 語幹化した形式、すなわち多段型の動詞と同じくエ段形をとることもある。二段型の動詞は、エ段形-ロをとる。不規則動詞のうち、「する」は「セロ」のようにエ段形-ロの形式をとることもあれば、「セレ」のようなエ段形-レの形式をとる場合もある。「来る」は、「コイ」もしくはそれが母音融合した「ケー」という形式をとる。

- ・ナマエバ カケ。(名前を書け。)
- ・コリバ {ミロ/ミレ}。(これを見ろ。)
- ・ヤサイバ タバロ。(野菜を食べろ。)
- ・デンワバ {セロ/セレ}。(電話をしろ。)
- ・ココサン {コイ/ケー} (ここに来い。)

〈禁止形〉

多段型の動詞は、ウ段形にナが接続する。語幹末子音が r であるときは、基幹末の撥音化が生じることがある(例:ハシル-ナ (hasir-u-na) →ハシンナ (hasinna))。一段型の動詞は、語幹にルナもしくはンナが接続し、二段型の動詞は、ウ段形にルナもしくはンナが接続する。不規則動詞に関して、「する」はウ段形に、「来る」はイ段形にルナもしくはンナが接続する。

- ・ソケー エバ カクナ。(そこに絵を描くな。)
- ・ソゲン ジロジロ {ミルナ/ミンナ}。(そんなにジロジロと見るな。)
- ・カンバツカイ {タブルナ/タブンナ}。(お菓子ばかり食べるな。)
- ・ノロノロ {スルナ/スンナ}。(のろのろするな。)
- ・コッチニ {クルナ/クンナ}。(こっちに來るな。)

〈意志形〉

多段型の動詞は、ア段形にウが接続して母音融合する(例:カカ-ウ (kak-a-u) →カコー (kakoo))。

一段型の動詞は、語幹にウが接続して母音融合するか(例:ミ-ウ (mi-u) →ミュー (mjoo))、語幹にヨーが接続するか(例:ミ-ヨー (mi-joo) →ミヨー (mijoo))、r 語幹化した語幹がア段形をとったものにウが接続して母音融合する(例:ミラ-ウ (mir-a-u) →ミロー (miroo))。二段型の動詞は、エ段形にウが接続して母音融合するか(例:タバ-ウ (tabe-u) →タバビュー (tabjuu))、エ段形にヨーが接続する(タバ-ヨー (tabe-joo) →タバヨー (tabejoo))。不規則動詞に関して、「する」はエ段形にウが接続して母音融合するか(セ-ウ (se-u) →シュー (sjoo))、もしくはイ段形にヨーが接続する(シ-ヨー (si-joo) →シヨー (sijoo))。「来る」は、オ段形にヨーが接続する。

- ・ハヨ カコー。「早く書こう。」
- ・アシタワ シバイバ {ミュー/ミヨー/ミロー}。「明日は芝居を見よう。」
- ・ゴハンバ {タバビュー/タバヨー} イ。(ご飯を食べようよ。)
- ・オレイバ {シュー/シヨー} カ。(お礼をしようか。)
- ・マタ コヨーイ。(また来ようよ。)

〈推量形〉

推量形は、意志形と同じ形式をとるか、断定非過去形や断定過去形にヤローが後続することで形成される。

- ・ジワ コゲン カクヤロー。(字はこんなふう
に書くだろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同じ形式をとる。

- ・エバ ジョーズニ カク ヒト (絵を上手に
書く人)

〈連体過去形〉

連体過去形と同じ形式をとる。

- ・ショーセツバ ケータ ヒト (小説を書いた
人)

〈中止形〉

中止形に用いられる基幹は過去形と同じであり、それに-テが接続する。

- ・ケーテ モロテ ヨカカン。(書いてもらって
いいでしょうか。)

〈否定中止形〉

多段型の動詞はア段形をとり、それに-ンナが接続

する。一段型の動詞は、語幹に-ンナが接続する。-ンナが接続するとき、一段型の動詞がr語幹化する可能性もあるが、未調査である。二段型の動詞は、エ段形に-ンナが接続する。不規則動詞に関して、「する」はエ段形に-ンナが接続し、「来る」はオ段形に-ンナが接続する。

- ・カカンナ ミトケ。(書かないで見ている。)
- ・テレビデン ミンナ イッショーケンメーベンキョー サスバノ。(うちの孫は) テレビなんか見ないで、一生懸命勉強するよ。)
- ・ゴハンモ タベンナ ガマデータ。(ご飯も食べないで働いた。)
- ・シュクダイ センナ テレビバ ミヨル。(宿題をしないでテレビを見ている。)
- ・ココサン コンナ カエッタ。(ここに来ないで帰った。)

否定中止を表す形式には、-ンナのほかに-デナと-ジがある。これらの接辞がどのような語幹に接続するかは未調査であり、-ンナ、-デナ、-ジの使い分けも不明である。ただし、-デナが多段型動詞のア段形、一段型動詞の語幹、「する」のエ段形に接続しうること、-ジが多段型動詞のア段形に接続しうことは談話データにより確認している。談話中の例を、以下に示す。

- ・ハラ カカデナ ニコッチ シテ (腹を立てないでにこっとして)
- ・イッチョデン ミデナ カエラシタ。(少しも見ないでお帰りになった。)
- ・スワッデン セデナ (座りもしないで)
- ・ユワジ オツテ (言わないでいて)

〈仮定形〉

仮定形を表す形式には、-タラ、ナラ、ゲットがある。-タラは、過去形と同じ基幹をとり、それに-タラが接続する。ナラは、非過去形や過去形、否定形に接続する。ゲットは非過去形と否定形に接続することを確認している。過去形にも接続できる可能性があるが、未検証である。

- ・ソゲン ケータラ ホメラレタ。(そんなふう
に書いたら褒められた。)
 - ・ナマエバ {カクナラ／カクゲット} ヨカ
ローダイ。(名前を書いたらいいだろうね。)
- これら3形式の詳細な使い分けは、現時点で不明

である。以下では、これまでに筆者が収集した談話データにおいて、これら3形式がどのようなタイプの条件文に用いられているかを、有田(2007)や有田ほか(2019)の分類に基づいて整理する。

-タラは、事実的条件文に用いられる。

- ・アマドバ アケトツタラ クラワレタ。(雨戸を開けていたら(蚊に)刺された。)

非過去形+ナラや過去形+ナラは、予測的条件文に用いられる。

- ・チューシャバ セヤンチ ユーナラ ヨロコ
ーデ シテ モラウ。(お医者さんが)注射をしないといけないと言うなら、(私は)喜んでしてもらう。)

- ・イエバ デタナラ ダリカ オロー。(家から出たら、(外に)誰かいるだろう。)

非過去形+ゲットは、予測的条件文や事実的条件、総称的条件文に用いられる。

- ・ココカラ ミルゲット ミユルバノ。(外を見ようとしている人に対して)ここから見たら(外が)見えるよ。)
- ・ノーキョーダシ スルゲット ゼンニ ナリ
ヨッタタイ。(農協に出荷するとお金になっていたよ。)
- ・クスイバ フルゲット シンタンモ。(蜂の
巣に)葉をふったら(蜂は)死ぬよ。)

〈目的形〉

目的形は、「～しに」という移動の目的を表し、目的形に後続する動詞は移動動詞に限られる。多段型の動詞はイ段形に、一段型の動詞は語幹に、二段型の動詞はエ段形に-ゲが接続する。不規則動詞に関して、「する」はイ段形に-ゲが接続する。不規則動詞「来る」が目的形をとる例は収集できていない。これは、「来る」自体が移動を意味する動詞であり、そのため移動の目的を表す-ゲと共にしにくいという意味的な制限によるものと考えられる。

- ・ナマエ カキゲ イッタタイ。(名前を書きに行ったらよ。)
- ・ミゲ イクナラ ケツカバ オソエテ クレ
ンカ。(見に行くなら、結果を教えてください。)
- ・ゴハン タベゲ イッタ。(ご飯を食べに行っ
た。)

- ・シアイ シゲ イクゲット アメノ フリダ
シタタン。(試合をしに行ったら、雨が降り出したよ。)

なお、長崎県宇久島野方言(中村 2019)など九州方言の一部では、1モーラの語幹に-ゲやその同根形式が接続する場合に語幹が長母音化する方言もあるが(例:ミーギャ「見に」、中村 2019: 114-115)、柳川市方言においては同様の現象は確認していない。
(否定形)

多段型の動詞はア段形をとり、それに-ンが接続する。一段型の動詞は、語幹に-ンが接続する場合もあるが、r語幹化したものがア段形をとり、それに-ンが接続する場合もある。二段型の動詞は、エ段形に-ンが接続する。不規則動詞に関して、「する」はエ段形に-ンが接続し、「来る」はオ段形に-ンが接続する。

- ・エワ カカン。(絵は描かない。)
- ・オラー ミューゴツ ナカケン {ミン/ミラン}。(私は見たくないから見ない。)
- ・ゴハンナ タバン。(ご飯は食べない。)
- ・ソージ セン。(掃除しない。)
- ・コツツァンナ トーデ コン。(こっちには飛んでこない。)

過去時制の場合には、ヤッタが(例:カカンヤッタ「書かなかった」)、推量の場合には、ヤローが(例:カカンヤロー「書かないだろう」)、仮定の場合には、ナラヤゲット(例:{カカンナラ/カカンゲット}「書かなかったら」)が否定形に後続する。

〈義務形〉

義務形は、「～しなければならない」という意味を表す。多段型の動詞は、ア段形に-ヤンが接続する。一段型の動詞は、語幹に-ヤンが接続する。筆者の内省では、ミラ-ヤンのようにr語幹化した形式も容認できるが、本稿が考察対象とした80代の話者がr語幹化した形式を容認するか否かは未確認である。二段型の動詞は、エ段形に-ヤンが接続する。不規則動詞のうち、「する」は「セ-ヤン」のようにエ段形に、「来る」は「コ-ヤン」のようにオ段形に-ヤンが接続する。

- ・ジワ キレーニ カカヤン。(字はきれいに書かないといけない。)
- ・ヨット ミヤン。(ちゃんと見ないといけない。)
- ・ヤサイモ タバヤンパイ。(野菜も食べないと

いけないよ。)

- ・シューゼン セヤン。(修繕しないといけない。)
- ・ウツツァン ツレテ コヤン。(うちに連れてこないといけない。)

過去の場合には、ヤッタが後続して過去の状態であることを示す。推量を表す場合には、ヤローが後続する。

- ・ヨーチエンニ ヤラヤンヤッタ。(孫を)幼稚園にやらないといけなかった。)
- ・ハヨ イカヤンヤロー。(早くいかないといけないだろう。)

〈丁寧形〉

標準語と同様のカキマス「書きます」のような形式と、動詞の非過去形や過去形にデスを後続させる形式の両方が用いられる。カキマスのような形式は、すべての動詞に後続する形式が標準語と同形であり、話者の中では標準語を話しているという意識があるようである。このため、本稿では詳述しない。

カクデスのような形式に関して、デス自体は時制によって活用しない。過去の事態を示すためには、動詞の断定過去形にデスが後続する。非過去形末がルで終わる場合には、ルが促音化する場合もある。推量を表す場合には、カクデショー「書くでしょう」のような形式をとる。

- ・ムカシワ ショーセツバ ケータデスモンネ。(昔は小説を書きましたものね。)

〈使役形〉

多段型の動詞はア段形に-スルが、一段型の動詞は基幹に-サスルが、二段型の動詞はエ段形に-サスルが接続する。使役形において、例えばミラスル「見させる」のような形式は容認されない。不規則動詞に関して、「する」はア段形に-スルが接続し、「来る」はオ段形に-サスルが接続する。

- ・テガミバ カカスル。(手紙を書かせる。)
- ・エーガバ ミサスル。(映画を見させる。)
- ・ゴハンバ タバサスル。(ご飯を食べさせる。)
- ・ソージ サスル。(掃除させる。)
- ・ウチニ コサスル。(うちに来させる。)

使役形は、二段型の動詞と同じく活用する。過去の例を以下に示す。

- ・テガミバ カカセタ。(手紙を書かせた。)

〈受身形〉

多段型の動詞はア段形に-ルルが、一段型の動詞は基幹に-ラルルが、二段型の動詞はエ段形にラルルが接続する。不規則動詞に関して、「する」はア段形にルルが接続し、「来る」はオ段形にラルルが接続する。

- ・カベニ エバ カカルル。(壁に絵を描かれる。)
- ・ノートバ ミラルル。(ノートを見られる。)
- ・ソゲン ユーテ ホメラルル。(そう言って褒められる。)
- ・ソゲンカ ソブリバ サルル。(そんな素振りをされる。)
- ・キューニ コラルル。(急に来られる。)

受身形は、二段型の動詞と同じく活用する。過去の例を、以下に示す。

- ・エバ カカレタ。(壁に) 絵を描かれた。)

〈可能形〉

可能を表す形式には、-キルを用いたものと-ルルや-ラルルを用いたものがある。本稿が対象とする話者が両形式をどのように使い分けているかは不明であるが、近隣方言では、いわゆる能力可能を表す場合に-キルを、状況可能を表す場合に-ルルや-ラルルを用いるという指摘があり(九州方言学会 1969: 94-97、ほか多数)、同様の使い分けがなされている可能性がある。なお、筆者の内省では、-キルは渋谷(2006: 65)の分類でいう心情可能、能力可能、内的条件可能を、-ルルや-ラルルは能力可能、内的条件可能、外的条件可能を表す場合に用いる。筆者の内省による例を、以下に示す。

- ・ワタシワ パクチャー スカンケン タベキラン。(私はパクチャーは嫌いなので食べられない(心情可能)。)
- ・アレルギーヤケン ソバワ {タベキラン／タベラレン}。(アレルギーだから、蕎麦は食べられない(能力可能)。)
- ・オナカノ イタカケン ゴハンワ {タベキラン／タベラレン}。(お腹が痛いから、ご飯は食べられない(内的条件可能)。)
- ・ソレワ ネマツトルケン タベラレン。(それは腐っているから食べられない(外的条件可能)。)

以下では、本稿が主な対象とする 80 代の話者のデータを示す。-ルルや-ラルルを用いた形式は受身形と同じである。

- ・ドーシドーシ ハナシヨルケン オモタゴト ハナサルル。(友達どうして話しているから、思っているように話すことができる。)
- ・テレビモ ミラルル。(故障したテレビを修理したので) テレビも見ることができる。)
- キルを用いた形式に関して、多段型の動詞はイ段形に、一段型の動詞は語幹に、二段型の動詞はエ段形に-キルが接続する。不規則動詞に関して、「する」はイ段形に、「来る」はイ段形に-キルが接続する。
- ・ナンデン カキキル。(なんでも書ける。)
- ・メンドー ミキル。(面倒を見ることができる。)
- ・カタカ モンモ タベキル。(固いものも食べることができる。)
- ・ケンカ シゴツバ シキルカ。(こんな仕事ができるか。)
- ・ヒトツデ キキル。(一人で来られる。)

なお、北部九州方言では長崎などを中心に、1 モーラの語幹に-キルが接続する場合に語幹が長母音化する(例: シーキツゴト「することができるように」)方言もあるが(愛宕 1978: 135)、柳川市方言においては同様の現象は確認していない。

-キルは、多段型動詞と同じく活用する。過去の例を、以下に示す。

- ・ムカシワ タベキッタ バッテン イマワ タベキラン。(昔は食べることができたけど、今は食べられない。)

〈尊敬形〉

尊敬を表す形式には、-ラスに代表される形式と-ナハルがある。詳細な使い分けは不明であるが、-ラスは年下の親族にも用いることができるのに対し-ナハルは用いることができないことから、-ラスよりも-ナハルの方が高い敬意を表している可能性が高い。

-ラスに代表される形式について、以下に述べる。多段型の動詞は、ア段形に-スが接続する。一段型の動詞は基幹に、二段型の動詞はエ段形に-ラスが接続する。不規則活用に関して、「する」の場合はア段形に-スが接続する。筆者の内省では、エ段形に-ラスが接続した形式(セラス)も容認可能であるが、本稿が考察対象とした 80 代の話者が当該形式を容認するか否かは未確認である。「来る」に関しては、オ段形に-ラスが接続する。

- ・ヨカ プンショーバ カカスヨ。(いい文章をお書きになるよ。)
- ・テレビバックイ ミラスモン。(テレビばかりご覧になるもの。)
- ・ユー タベラス。(よくお食べになる。)
- ・レンシュー サス。(練習なさる。)
- ・〇〇チャンノ コラスバン。(〇〇ちゃんがいらっしゃるよ。)

-ラスに代表される形式は、否定形や推量形をとるときにそれぞれミラッサン「ご覧にならない」、ミラッソー「ご覧になるだろう」のような不規則な活用をとる。詳細については、松岡(2021:54-55)を参照されたい。

-ナハルを用いた形式について、以下に述べる。多段型の動詞はイ段形に-ナハルが接続する。ただし、多段型の動詞の語幹末子音がrのときは、オンナハル「いらっしゃる」のように基幹末の撥音化が生じる。一段型の動詞は語幹に、二段型の動詞はエ段形に-ナハルが接続する。不規則動詞に関して、「する」はイ段形に、「来る」はイ段形に-ナハルが接続する。

- ・キレーカ ジバ カキナハル。(きれいな字をお書きになる。)
- ・マダ オンナハル。(まだいらっしゃる。)
- ・ユー ミナハル。(よくご覧になる。)
- ・アン ヒトワ ユー タバナハル。(あの人はよくお食べになる。)
- ・セワ シナハル。(お世話をなさる。)
- ・センセーノ キナハルモン。(先生がいらっしゃるもの。)

-ナハルは、多段型動詞に準じた活用をする。過去の例を、以下に示す。

- ・ウンドージョーニ デロチ イイナハッタ。
(「運動場に出る」とおっしゃった。)

〈継続形〉

ある種の継続を表す形式には、-ヨルと-トルがある。-ヨルは主に動作継続や習慣を、-トルは完了や結果継続を表すようであるが(松岡2021:113)、詳細な使い分けは不明である。

-ヨルを用いた形式について、以下に述べる。多段型の動詞はイ段形に、一段型の動詞は語幹に、二段型の動詞はエ段形に-ヨルが接続する。不規則動詞に関して、するはイ段形に、来るはイ段形に-ヨルが接

続する。

- ・アン ヒター ショーセツバ カキヨル。(あの人は小説を書いている。)
- ・テレビ ミヨル。(テレビを見ている。)
- ・パンバ タベヨル。(パンを食べている。)
- ・コンノー シタイ ムギゴンノー シタイ シヨル。(米の収穫をしたり麦の収穫をしたりしている。)
- ・イナカカラ キヨル。(田舎から来ている。)
- ・ヨー ケートル。(上手に書いている。)
- ・ソリワ モー ミトルバノ。(それはもう見ているよ。)
- ・ヒルワ モー タベトル。(昼ごはんはもう食べている。)
- ・シュクダイ シトルカ。(宿題はしているか。)
- ・コメ モッテ キトル。(米をもってきている。)

-ヨル、-トルは、ともに多段型動詞と同じ活用をする。過去の例を、以下に示す。

- ・オリモ イイヨッタバノ。(私も言っていたよ。)
- ・ジカンナ キマツッタ。(時間は決まっていた。)

〈希望形〉

希望形は、意志形にゴタルを後続させて表す。

- ・テガミバ カコーゴタル。(手紙を書きたい。)
- ・ドラマバ {ミューゴタル/ミヨーゴタル/ミローゴタル}。(ドラマを見たい。)

ゴタルは過去形としてゴタッタという形式となることを確認しているが、その他の活用は未調査である。

〈のだ形〉

のだ形は、動詞の非過去形や過去形、義務形に形式名詞トを接続させることによって表す。前掲の表《動詞》には、動詞非過去形に形式名詞トが接続したもののみを示している。

ほとんどの場合、のだ形にはヤローやタイといった要素が後続する。タイが後続するときは、形式名詞トは促音化する。動詞の非過去形にトが接続するとき、非過去形末がルである場合(例:ハシル「走る」、ミル「見る」、スル「する」など)、促音化する(例:ハシット「走るの」、ミット「見るの」、スツ

ト「するの」。

- ・コケー カクトヤロー。(ここに書くんだろう。)
- ・マミガ ミヨバ クラシタツタイ。(マミがミヨを殴ったんだよ。)
- ・コマカ ムシガ イッテ クット。(小さい虫が入ってくるの。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

他の肥筑方言と同じく、形容詞はいわゆるカ語尾(吉町 1931: 58)をとる。標準語においては形容名詞に属するような語幹(例:kiree「きれい」、mazime「まじめ」)は、柳川市方言においては断定非過去や断定過去などの環境では形容名詞語幹と形容詞語幹の両方としてふるまいうるが(例:キレーカッタ、キレーヤツタ「きれいだった」)、中止形、否定形、なる形、副詞形では形容名詞語幹としてのみふるまう。

形容詞の交替語幹に関して、中止形、否定形、なる形、副詞形では、語幹末母音に応じて、以下のような交替語幹が現れる。

語幹末母音	交替語幹	例
a	o	アッカ アコ
i	ju	サミシカ サミシュ
u	u	オブカ オブ
o	o, u	フトカ フト ヨカ {ヨー/ユー}

柳川市方言における 1 モーラの形容詞語幹には、na「ない」と jo「よい」の二つがある。1 モーラの形容詞語幹とその他の形容詞語幹は、交替語幹において異なるふるまいを示す。具体的には、2 モーラ以上の語幹は母音融合の結果生じた長母音の短母音化が生じるのに対し(例:aka-u→akoo→ako「赤く」)、1 モーラの語幹は長母音の短母音化が生じない(例:na-u→noo「なく」)。

〈断定非過去形〉

形容詞の断定非過去形は、語幹に-カが接続する。形容詞語幹末がカヤクである場合は、語幹末が促音化する。

- ・タローワ アシノ ハヤカ。(太郎は足が速い。)
- ・カオノ アッカ。(顔が赤い。)
- ・オリワ アリガ ニツカ。(私はあいつが憎い。)

標準語における形容名詞述語に属する語が、形容詞として活用する場合もある。

- ・アノ ハナワ キレーカ。(あの花はきれいだ。)

〈断定過去形〉

形容詞の断定過去形は、語幹に-カッタが接続する。

- ・タローワ イゼンナ アシノ ハヤカッタバ
イ。(太郎は昔は足が速かったよ。)

標準語における形容名詞述語に属する語が、形容詞として活用する場合もある。

- ・アノ ハナワ キレーカッタ。(あの花はきれいだった。)

〈推量形〉

形容詞の推量形は、語幹に-カロウが接続するか、非過去形にヤローが接続する。

- ・アノ ンマワ バサラカ アシノ {ハヤカ
ロー/ハヤカヤロー}。(あの馬はすごく足が速いだろう。)

標準語における形容名詞述語に属する語が、形容詞として活用する場合もある。

- ・アノ ヒトワ ジノ {キレーカロウ/キ
レーカヤロー}。(あの人は字がきれいだろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同じ形式をとる。

- ・アシノ バサラカ ハヤカツガ オッタバン
モ。(足がとても速い人がいたよ。)
- ・キレーカ ハナノ セートル。(きれいな花が
咲いている。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同じ形式をとる。

- ・アシノ ハヤカッタツモ オソ ナツタ。(足
が速かった人も(年齢を重ねて)遅くなった。)
- ・キレーカッタ ハナモ カレタ。(きれいだった
花も枯れた。)

〈中止形〉

形容詞の中止形は、後述する副詞形にシテを接続させて形成される。

- ・アサノ ハヨ シテ キツカッタ。(朝が早く
てきつかった。)

標準語における形容名詞述語に属する語は、形容

詞と同様の副詞形(例:キレーウ シテ「きれいで」)をとることはない。

〈仮定形〉

形容詞の仮定形は、-カッタラ、ナラ、ゲットを用いて表される。-カッタラに関しては、語幹に-カッタラを接続させて表す。

- ・アシノ ハヤカッタラ ヨカッタバツテン。
(足が速かったらよかったけど。)

ナラは、非過去形や過去形に接続する。ゲットは非過去形に接続することを確認している。過去形にも接続できる可能性があるが、未検証である。

- ・アシノ ハヤカナラ ヨカネ。(足が速いならいいね。)
- ・コン ドーラノ モット オブカッタナラ モット モーカツジャロー。(この米俵がもっと重かったら、もっと儲かるだろう。)
- ・ジカンノ ハヤカゲット ダリモ オランタンモ。(到着する)時間が早いと、誰もいないよ。)

これら3形式の使い分けは不明であり、今後の調査が必要である。

〈否定形〉

形容詞の否定形は、後述する副詞形にナカを後続させて表す。標準語における形容名詞述語に属する語は、形容詞と同様の否定形(例:キレーウ ナカ「きれいじゃない」)をとることはない。

- ・タローワ アシノ ハヨ ナカ。(太郎は足が速くない。)

ナカは形容詞型の活用をとる。

〈なる形〉

形容詞のなる形は、後述する副詞形にナルを後続させて表す。

- ・レンシュー スンナラ アシノ ハヨ ナル。
(練習をしたたら、足が速くなる。)

標準語における形容名詞述語に属する語は、形容詞と同様のなる形(例:キレーウ ナル「きれいになる」)をとることはない。

〈副詞形〉

形容詞の副詞形は、語幹にウを接続させ、語幹末母音と母音融合した形式で現れる。

- ・ハヨ ハシレ。(早く走れ)
- ・アオ ヌツト ヨカタイ。(青く塗るといいよ。)

標準語における形容名詞述語に属する語は、形容詞と同様の副詞形(例:キレーウ「きれいに」)をとることはない。

〈丁寧形〉

形容詞の丁寧形は、形容詞の断定非過去形や断定過去形にデスが後続することによって形成される。

- ・アシノ ハヤカデスモンネ。((あの人は)足が速いでものね。)

- ・サクラワ キレーカデスモン。(桜はきれいですもの。)

デスは時制によっては活用せず、過去の事態を表す場合は形容詞が断定過去形をとり、それにデスが接続する。

〈のだ形〉

形容詞ののだ形は、形容詞の非過去形や過去形、に形式名詞トを接続させることによって表す。前掲の表《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》には、形容詞非過去形に形式名詞トが接続したもののみを示している。動詞ののだ形と同様に、形容詞ののだ形にもヤローなどの要素が後続する。

- ・アノ ンマワ キット アシノ ハヤカトヤロー。(あの馬はきっと足が速いのだろう。)
- ・イッショーケンメー ソダテタケン キレーカトヤロー。(一生懸命育てたから(あの花は)きれいなんだろう。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語・名詞述語は、語幹に後続するコピュラが文法的な機能を示す。コピュラの形式にはジャに代表される形式とヤに代表される形式がある。両形式に音形以外の機能的な差異があるか否かは不明である。ただし、本稿が対象とする2名の話者のうち、ジャに代表される形式は主に男性の話者が、ヤに代表される形式は主に女性の話者が用いており、性別差が影響している可能性がある。以下では、ヤに代表される形式のみを示す。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は通常、形容名詞述語・名詞述語ともにコピュラによる標示はなされない。ただし、非過去形に理由を表す接続助詞ケンが接続する際や終助詞モンが接続する際には、ヤヤヤツという形式が義務的に現れる。

- ・アノ ハナワ キレー。(あの花はきれいだ。)
- ・キレーヤッケン。(きれいだから。)
- ・キレーヤモン。(きれいだもの。)

〈断定過去形〉

断定過去形の場合、形容名詞・名詞にコピュラの過去形ヤッタが後続する。

- ・アノ ハナワ キレーヤッタ。(あの花はきれいだった。)
- ・アン ヒトワ センセーヤッタ。(あの人は先生だった。)

〈推量形〉

推量形の場合、形容名詞・名詞にコピュラの推量形ヤローが後続する。

- ・ソリヤー キレーヤロー。(それはきれいだろう。)
- ・ワタシガ センセーヤロー。(私の先生だろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は、形容名詞の場合はナが後続し、名詞の場合はノが後続する。

- ・キレーナ ハナ (きれいな花)
- ・オトコノ ヒト (男の人)

〈連体過去形〉

断定過去形と同じ形式をとる。

- ・キレーヤッタ ハナ (きれいだった花)
- ・センセーヤッタ ヒト (先生だった人)

〈中止形〉

中止形は、形容名詞・名詞にデが後続する。

- ・キレーデ ヤサシカ。(綺麗で優しい。)
- ・コメワ コンノーデ ムギワ ムギゴンノー。
(米(の収穫)はコンノーで、麦(の収穫)はムギゴンノー(と呼ぶ)。)

〈仮定形〉

仮定形は、形容名詞・名詞にナラを後続させるか、ヤッタラを後続させる。

- ・キレー {ナラ/ヤッタラ} モロテ カエローカ。(きれいなら、買って帰ろうか。)
- ・センセー {ナラ/ヤッタラ} タイヘンヤローダイ。(先生なら、(忙しくて)大変だろうね。)

動詞や形容詞の仮定形では、ゲットが後続する形式も用いられるが(例:ハヤカゲット「早かったら」)、形容名詞・名詞にゲットが後続するかどうかは未調

査であり、今後の調査が必要である。

〈否定形〉

否定形は、形容名詞・名詞にヤを後続させた形式にナカを後続させて表す。

- ・キレーヤ ナカモン。(きれいじゃないもの。)
- ・センセーヤ ナカバン。(先生じゃない。)

ナカは形容詞型の活用をする。

〈なる形〉

なる形は、形容名詞・名詞にニを後続させた形式にナルを後続させて表す。

- ・キレーニ ナル。(きれいになる。)
- ・センセーニ ナル。(先生になる。)

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞にデスを後続させて表す。

- ・アノ ハナワ キレーデスネ。(あの花は、きれいですね。)
- ・アン ヒトワ センセーデス。(あの人は先生です。)

過去の事象を表す場合には、形容名詞・名詞にコピュラの過去形が後続し、それにデスが後続する

- ・ヨカ センセーヤッタデスモンネ。(いい先生でしたものね。)

〈のだ形〉

形容名詞・名詞は、のだ形を持たない。

参考文献

- 愛宕八郎康隆(1978)「肥前長崎地方の「～キル」「～ユル」について」『長崎大学教育学部人文科学研究報告』27:135-144.
- 有田節子(2007)『日本語条件文と時制節性』東京:くろしお出版.
- 有田節子・岩田美穂・江口正(2019)「甌島里方言の条件表現」窪蘭晴夫・木部暢子・高木千恵(編)『鹿児島県甌島方言からみる文法の諸相』157-181. 東京:くろしお出版.
- 岡野信子(1983)「福岡県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編)『九州地方の方言』57-86. 東京:国書刊行会.
- 鬼丸泰子・加茂たか子・佐々木千代子・立田和子(1975)「久留米藩境における言語境界線(その六)一特に柳川藩との境界——」『国語研究』4:71-84.
- 加藤幹治・井手口将仁(2018)「福岡県八女市黒木方

- 言における子音語幹動詞のテ形派生音韻規則：韻脚を形成しない母音の削除」日本言語学会第 156 回大会、東京大学、2018 年 6 月 23 日。
- 九州方言学会（編）（1969）『九州方言の基礎的研究』東京：風間書房。
- 黒木邦彦（2019）「動詞語幹交替より紐解く九州方言のラ行五段化」窪園晴夫・木部暢子・高木千恵（編）『鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相』273-289。東京：くろしお出版。
- 坂田佳江（2004）「肥筑方言におけるサ詠嘆法」『語文研究』97：54-42。
- 渋谷勝己（2006）「自発・可能」小林隆（編）『方言の文法』47-92。東京：岩波書店。
- 高野よそ江・田中留美子（1972）「久留米・柳川両藩境の言語境界線」『国語研究』1：55-67。
- 中村京介（2019）「長崎県宇久島野方方言の文法概説」修士論文、東京外国語大学。
- 藤原与一（1952）「筑後柳河ことばの「メス」と「ノモ」」『近畿方言』15：1-12。
- 松岡葵（2021）「福岡県柳川市方言の文法概説」修士論文、九州大学。
- 松永恭子・上野哲子（1973）「久留米藩境における言語境界線—特に柳川藩・佐賀藩との境界—」『国語研究』2：45-72。
- 宮岡大（2021）「日本語諸方言におけるラ行五段化の方言間比較と通方言的一般化—語幹末母音・語幹モーラ数・接辞の観点から—」修士論文、九州大学。
- 吉町義雄（1931）「九州方言の特異性（一）」『九大国文学』1：49-72。

（松岡葵）